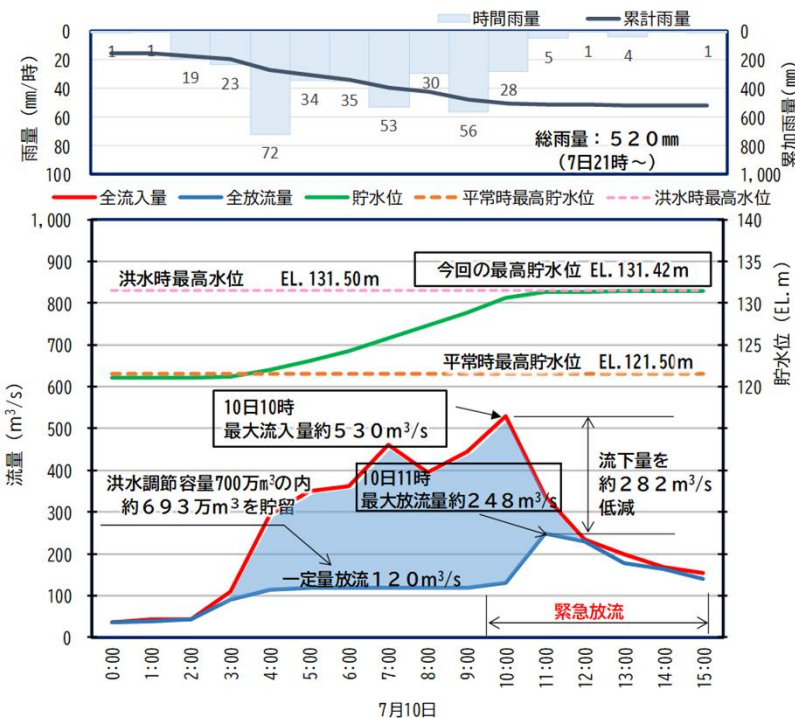
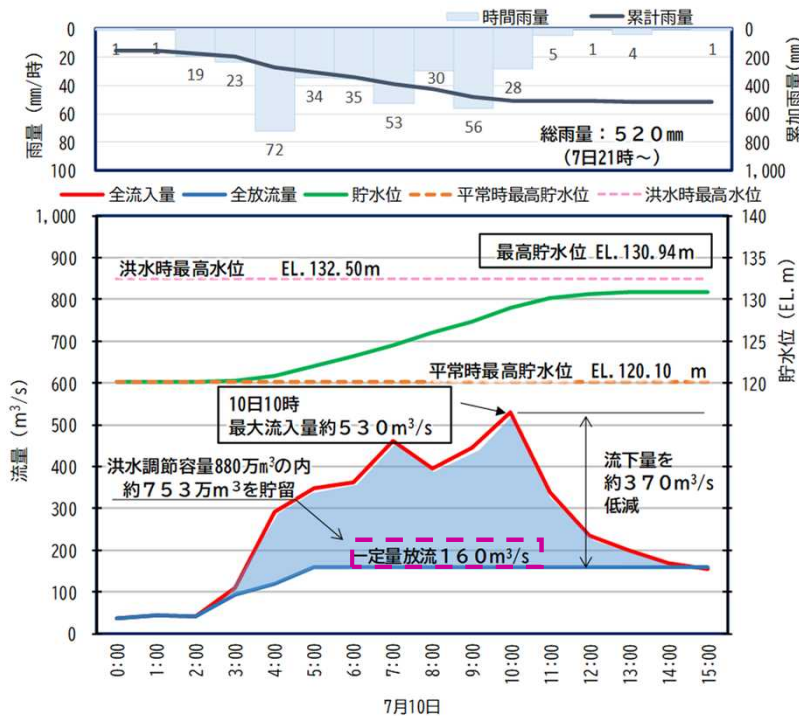


- 10日未明から九州北部を中心とする線状降水帯を伴う集中豪雨により、寺内ダム上流域では最大時間雨量約72mm(10日午前3時～午前4時)、7日21時の降り始めから約520mmの総雨量を観測した。この雨量は寺内ダム7月の平年雨量の約400mmの1.3倍に相当する。
- 10日午前9時50分より、計画を上回る洪水により洪水調節容量を使い切ることが予測されたため、「異常洪水時防災操作」いわゆる緊急放流を開始。この後、洪水調節容量を最大限活用する操作を実施し、10日16時50分に緊急放流を終了した。
- 「寺内ダム再生事業」が完了し、洪水調節容量を180万 m^3 増大した場合には、緊急放流を実施することなく洪水調節が可能と推定される。また、**ダム最大放流量を約90 m^3/s 低減**できることで、実績の約1.38m水位低減した効果に加え、**更に約0.1mの水位低減**ができると推定され、ダム下流の更なる安全への効果が期待される。

【実績】 既設の寺内ダムの効果



【推定】 寺内ダム再生事業後の効果



ダム洪水吐きからの放流
令和5年7月10日12時20分頃 (放流量約220 m^3/s)
【今回最大放流量は約248 m^3/s (11時)】

水位低下効果 (金丸橋地点)



※洪水調節操作方法については、整備計画の変更により、現行の90-120 m^3/s (定率・定量) から90-160 m^3/s (定率・定量) に変更する。
〔第9回筑後川学識者懇談会(令和4年5月30日) 資料-2 P7より〕

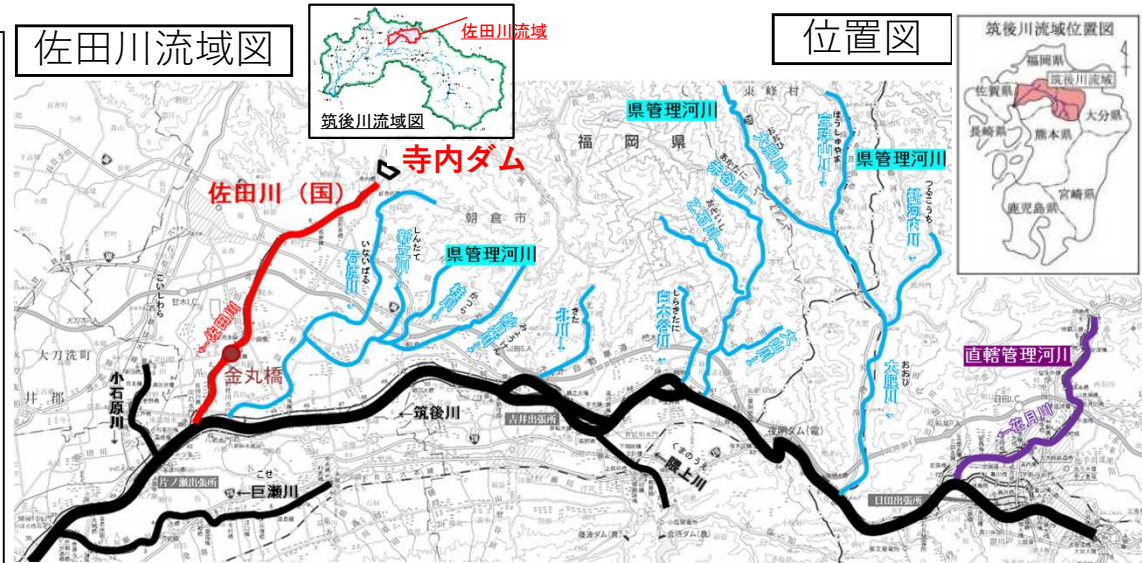
【参考】 てらうち 寺内ダム再生事業

○サーチャージ水位の見直し及び容量振替により、現況の洪水調節容量を700万 m^3 から880万 m^3 に増大させるとともに、洪水調節容量の増大に伴い非常用洪水吐きの改造を行うことで、治水機能の向上を図る。

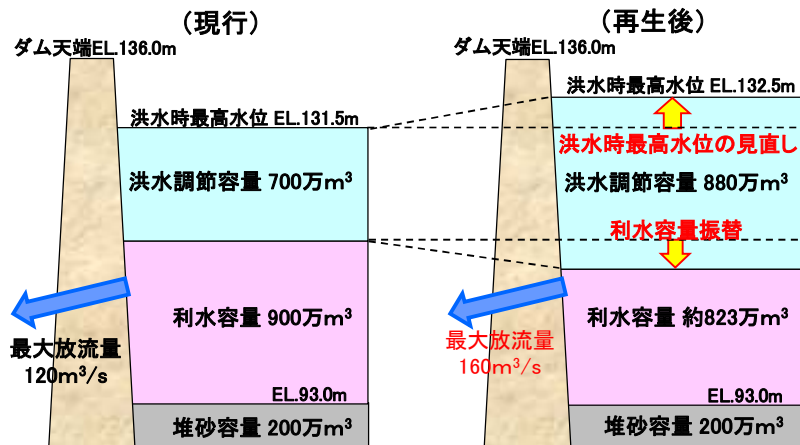
事業概要

事業場所	福岡県朝倉市荷原 <small>あさくら いないばる</small> 筑後川水系佐田川 <small>ちくごがわ さだがわ</small>
目的	洪水調節（佐田川の洪水被害軽減）
事業内容	①洪水時最高水位の見直し、利水容量振替による洪水調節容量の増量 洪水調節容量700万m^3 → 880万m^3（180万m^3増） ②洪水時最高水位見直しに伴う 非常用洪水吐きの改造
総事業費	約85億円
事業期間	令和5年度～令和11年度
諸元	型式：ロックフィルダム ダム高：83.0m 総貯水容量：1,903万 m^3 （再生前 1,800万 m^3 ） 有効貯水容量：1,703万 m^3 （再生前 1,600万 m^3 ） 集水面積：51.0 km^2

佐田川流域図



位置図



事業の効果

河川改修と併せて寺内ダム再生を行うことにより、H29年7月洪水と同規模の洪水に対して、被害の防止又は軽減を図る。

浸水世帯数：（ダム再生前）604世帯 → （ダム再生後）0世帯
 浸水面積：（ダム再生前）1,086ha → （ダム再生後）16ha